

北極環境研究コンソーシアム

北極は、地球温暖化による平均気温の上昇が最も大きく、地球上において気候変動による影響が最も顕著に現れると予測される地域の一つです。また、北極における変化は、大気・海洋循環の変化や雪氷圏、生物圏の変化などを通して、全球的な気候システムに大きな影響をもたらす可能性があります。地理的に北半球に位置し、気候・環境的にも北極域の影響を強く受けている我が国としては、北極における気候変動のメカニズムとその影響の解明、将来の変化の的確な予測、必要な対策の実行に向け、より組織的な北極環境研究を行う必要があります。

北極環境研究における我が国全体としての総合力を発揮するため、各研究機関において様々な研究活動に取り組んでいる北極環境研究者間の連携・協力を促進し、オールジャパン体制で北極環境研究の強化に取り組むネットワーク組織として、「北極環境研究コンソーシアム」を2011年5月25日に有志の呼びかけにより設立しました。



日本の観測基地のあるニーオルスン

北極環境研究 コンソーシアム

Japan
Consortium for
Arctic Environmental
Research

北極環境研究コンソーシアム事務局

〒150-8518 東京都立川市緑町 10-3
国立極地研究所 北極観測センター内

E-メール：jcar-office@nipr.ac.jp

ホームページ：<http://www.jcar.org>



2014年3月改定

1. コンソーシアムの活動

コンソーシアムでは、北極環境研究の長期計画策定や研究基盤整備に関する検討、国際国内の研究協力・連携の推進・検討、人材育成の方策の検討を行います。さらに、これらの研究者・関連機関への提案、コミュニティ内の円滑な情報の流通や国内・国際社会に対する研究・観測成果発信など、日本の北極環境研究の短期・長期的推進に関する検討・提案を行います。

北極環境研究に関する情報交換を行い連携や国際協力の推進方策などを議論してきた地球惑星連合大会「北極域の科学」セッション（2008年～）および国際北極研究シンポジウム（ISAR）（2008年、2010年、2013年）を主催します。また日本の科学者が行なっている北極環境研究の全体像の紹介、重要な科学的研究に関する一般向けの公開講演会の開催、ホームページを通じて現在の北極の変化、北極研究に関する情報を紹介します。



第3回国際北極研究シンポジウム（ISAR-3）
2013年1月東京

2. コンソーシアムの組織と予算

コンソーシアムは、登録会員の意見を聞きながら、運営委員会が実施事項を決定します。また、長期構想、データ・アーカイブ、研究交流、人材育成、情報・コミュニケーション、体制検討については作業委員会（WG）を設定し、活動を検討・実施します。

円滑にこれらのことを実施するために国立極地研究所北極観測センターに事務局を置きます。

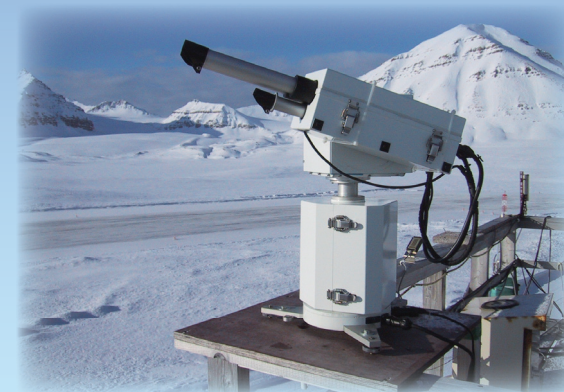
コンソーシアム事務局経費は、文部科学省の「グリーン・ネットワーク・オブ・エクセレンス（GRENE）事業北極気候変動分野」から支出されます。



ヤクーツク・スバスカヤパッドのフラックス観測

3. コンソーシアムへの登録

コンソーシアムでは皆様のご登録をお待ちしています。背面のホームページアドレスからご登録をお願いします。



スカイラジオメータによるエアロゾル・雲の放射観測



北極海の「みらい」航海

